

平成28年度秋田市エイジフレンドリーシティ 民間事業者アンケート

1 調査の目的

第2次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画の策定にあたり、民間事業者の超高齢社会に向けた取組状況および高齢者の能力活用に係る意識、課題や行政に対するニーズを把握するため、民間事業者アンケート調査を実施

2 調査の対象

秋田市企業情報データベース掲載事業者のうちメールアドレスを有する事業者から200社(無作為抽出)

3 調査の時期

発 送 日：平成28年5月18日

回答締切日：平成28年6月10日

4 調査の方法

郵送による。

5 回答結果

回答数：100社(回答率50%)

6 結果の集計

秋田市福祉保健部長寿福祉課で実施

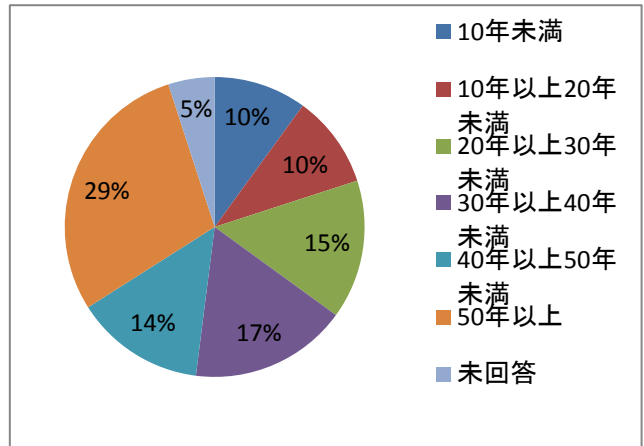
平成28年度秋田市エイジフレンドリーシティ 民間事業者アンケート結果

アンケート回答数 **100社**

※各設問の回答の割合は計100%となる。ただし(複数回答)の設問を除く。

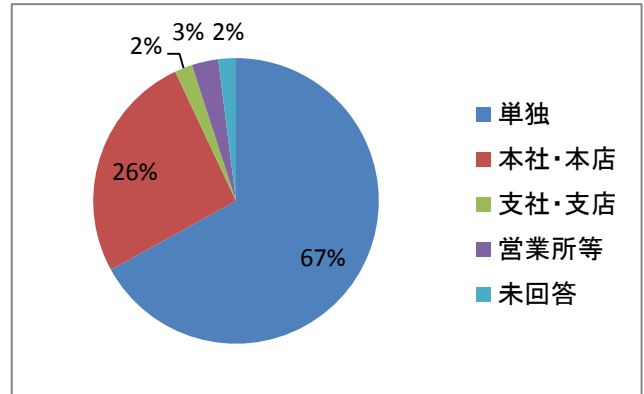
1 秋田市での営業年数

		割合 (%)	回答数(社)
1	10年未満	10.0	10
2	10年以上20年未満	10.0	10
3	20年以上30年未満	15.0	15
4	30年以上40年未満	17.0	17
5	40年以上50年未満	14.0	14
6	50年以上	29.0	29
7	未回答	5.0	5



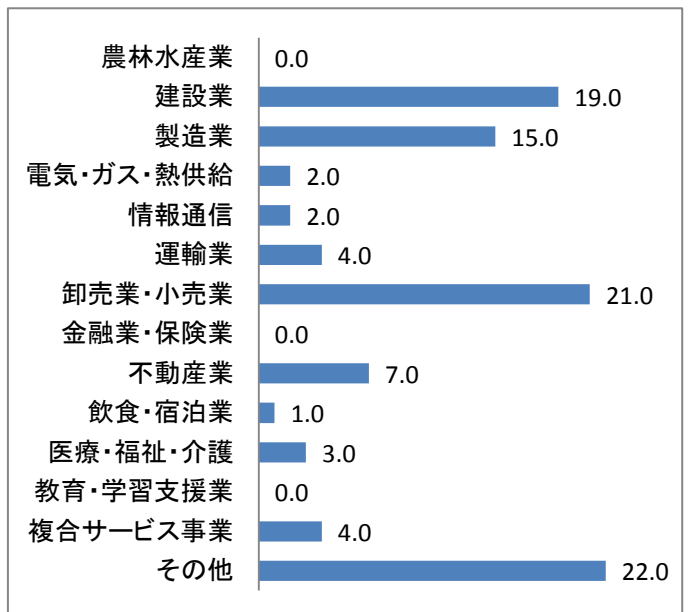
1-2 事業所区分

		割合 (%)	回答数(社)
1	単独	67.0	67
2	本社・本店	26.0	26
3	支社・支店	2.0	2
4	営業所等	3.0	3
5	未回答	2.0	2



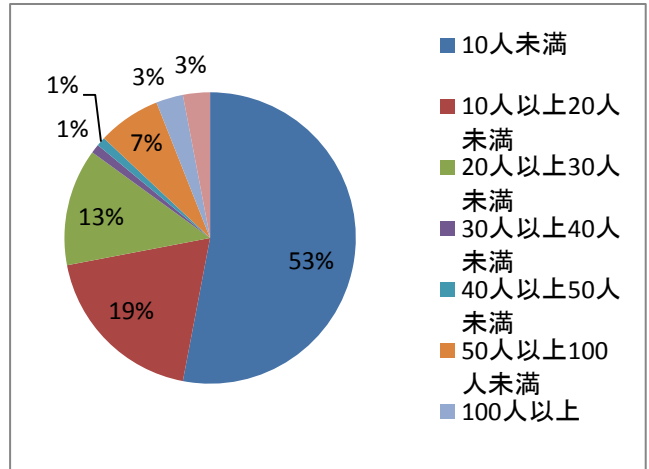
2 主たる業務

		割合 (%)	回答数(社)
1	農林水産業	0.0	0
2	建設業	19.0	19
3	製造業	15.0	15
4	電気・ガス・熱供給	2.0	2
5	情報通信	2.0	2
6	運輸業	4.0	4
7	卸売業・小売業	21.0	21
8	金融業・保険業	0.0	0
9	不動産業	7.0	7
10	飲食・宿泊業	1.0	1
11	医療・福祉・介護	3.0	3
12	教育・学習支援業	0.0	0
13	複合サービス事業	4.0	4
14	その他	22.0	22



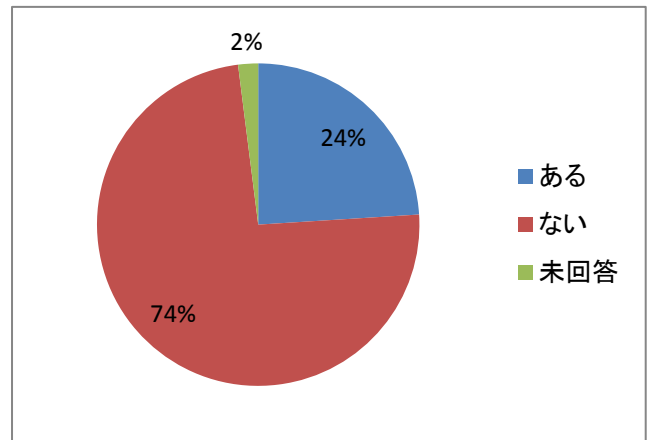
3 従業員数（正規および非正規の計）

	割合 (%)	回答数(社)
1 10人未満	53.0	53
2 10人以上20人未満	19.0	19
3 20人以上30人未満	13.0	13
4 30人以上40人未満	1.0	1
5 40人以上50人未満	1.0	1
6 50人以上100人未満	7.0	7
7 100人以上	3.0	3
8 未回答	3.0	3

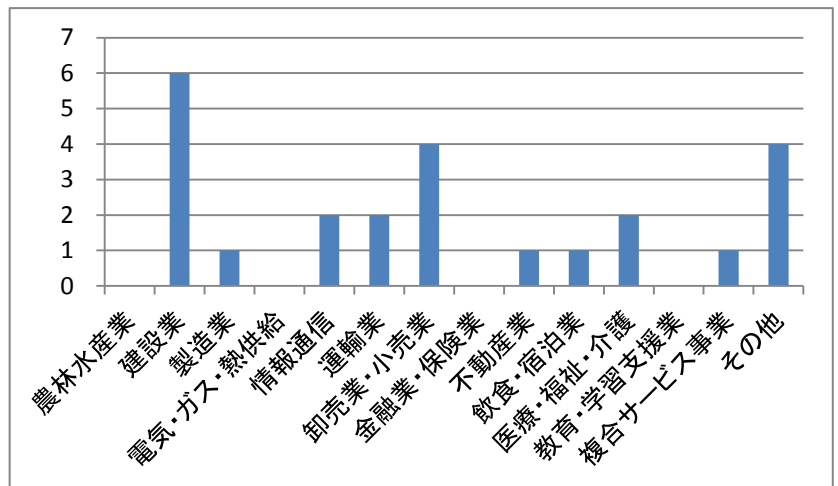


4 超高齢社会に向けて取り組んでいること

	割合 (%)	回答数(社)
1 ある	24.0	24
2 ない	74.0	74
3 未回答	2.0	2

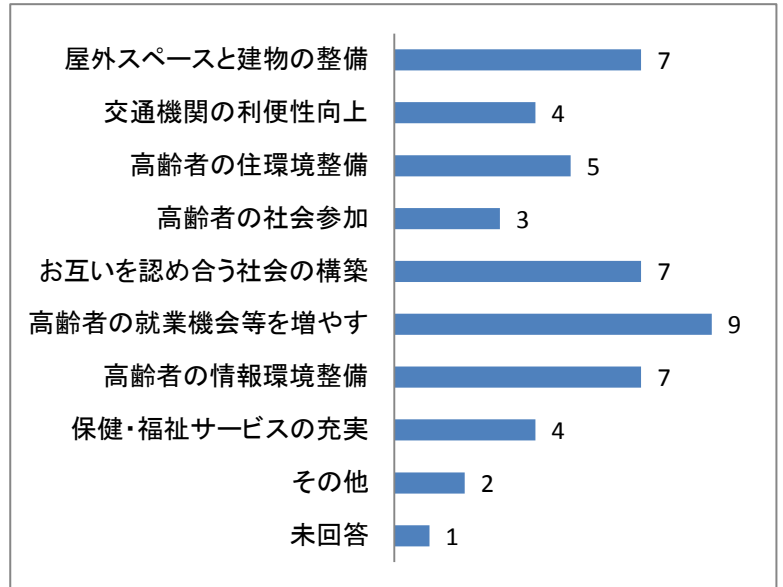


※「あり」と回答した24事業者の業種内訳



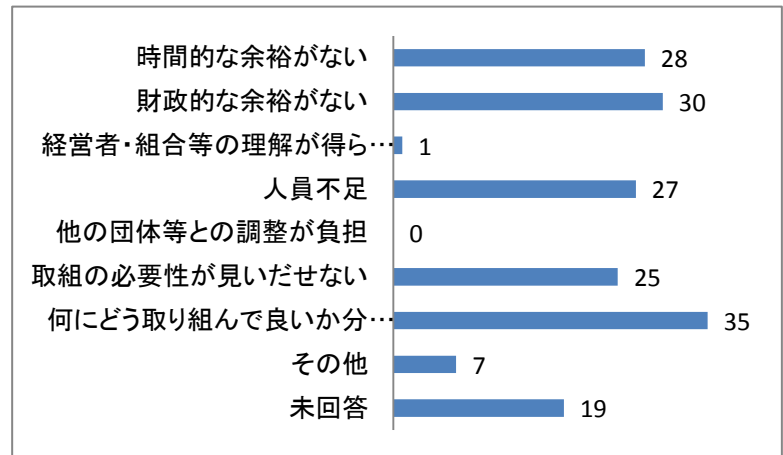
5 実施または検討中の分野（複数回答）

	回答数(社)
1 屋外スペースと建物の整備	7
2 交通機関の利便性向上	4
3 高齢者の住環境整備	5
4 高齢者の社会参加	3
5 お互いを認め合う社会の構築	7
6 高齢者の就業機会等を増やす	9
7 高齢者の情報環境整備	7
8 保健・福祉サービスの充実	4
9 その他	2
10 未回答	1



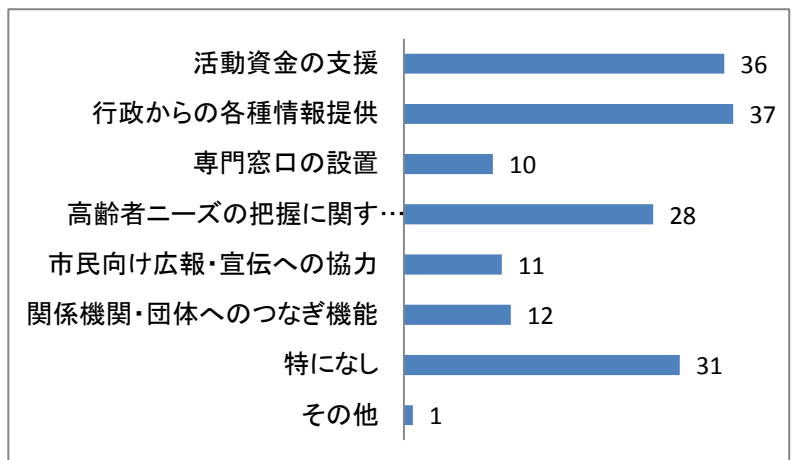
7 取り組むことができない理由（複数回答）

	回答数(社)
1 時間的な余裕がない	28
2 財政的な余裕がない	30
3 経営者・組合等の理解が得られない	1
4 人員不足	27
5 他の団体等との調整が負担	0
6 取組の必要性が見いだせない	25
7 何にどう取り組んで良いか分からない	35
8 その他	7
9 未回答	19



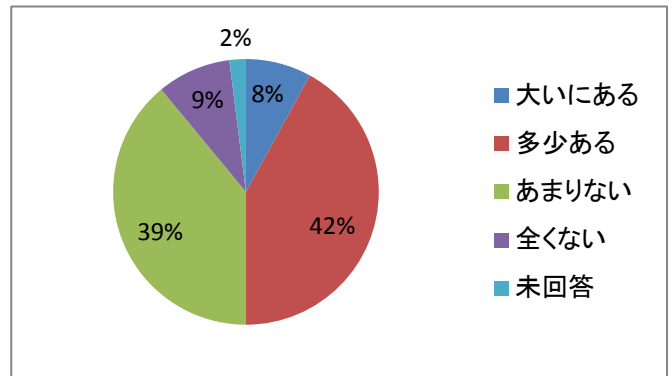
8 行政に対して望む支援（複数回答）

	回答数(社)
1 活動資金の支援	36
2 行政からの各種情報提供	37
3 専門窓口の設置	10
4 高齢者ニーズの把握に関する支援	28
5 市民向け広報・宣伝への協力	11
6 関係機関・団体へのつなぎ機能	12
7 特になし	31
8 その他	1



9 エイジフレンドリーパートナー制度への関心

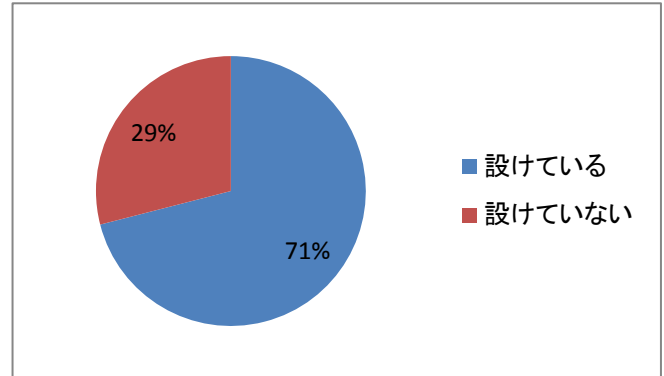
	割合 (%)	回答数(社)
1 大いにある	8.0	8
2 多少ある	42.0	42
3 あまりない	39.0	39
4 全くない	9.0	9
5 未回答	2.0	2



10 定年制の有無

	割合 (%)	回答数(社)
1 設けている	71.0	71
2 設けていない	29.0	29

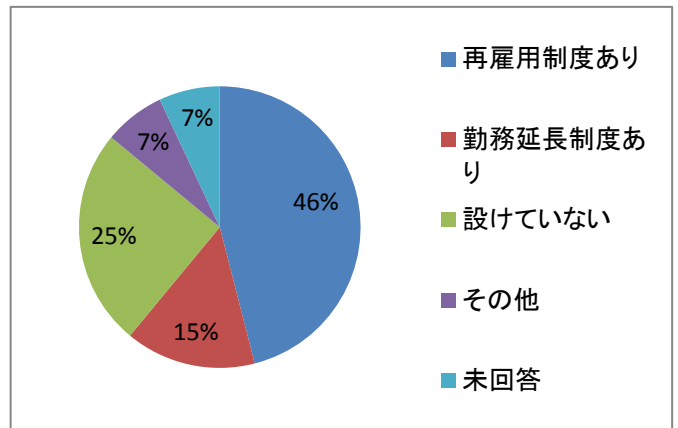
※定年の年齢	回答数(社)
60歳	50
62歳	1
65歳	16
未記入	4



11 定年後の継続雇用制度の有無

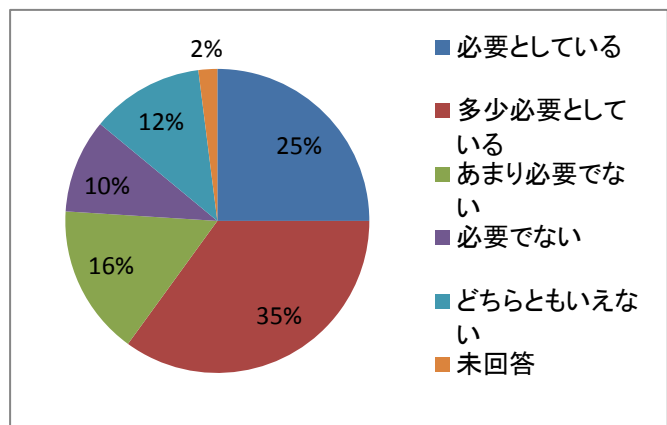
	割合 (%)	回答数(社)
1 再雇用制度あり	46.0	46
2 勤務延長制度あり	15.0	15
3 設けていない	25.0	25
4 その他	7.0	7
5 未回答	7.0	7

※雇用上限年齢 有 : 34社	回答数(社)
65歳	32
70歳	2



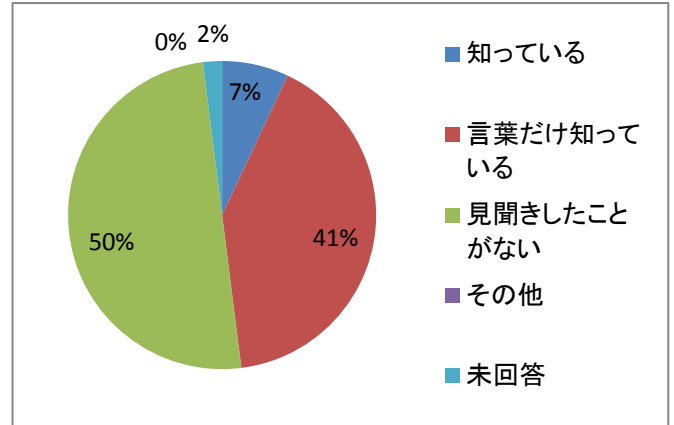
12 高齢者の能力・経験を必要としているか

	割合 (%)	回答数(社)
1 必要としている	25.0	25
2 多少必要としている	35.0	35
3 あまり必要でない	16.0	16
4 必要でない	10.0	10
5 どちらともいえない	12.0	12
6 未回答	2.0	2



13 エイジフレンドリーシティの認知度

	割合 (%)	回答数(社)
1 知っている	7.0	7
2 言葉だけ知っている	41.0	41
3 聞きしかなかった	50.0	50
4 その他	0.0	0
5 未回答	2.0	2



秋田市エイジフレンドリーシティ民間事業者アンケート調査

【自由記述】※原文のまま

問6 超高齢社会に向けて、現在行っている又は今後行うことを検討している取組

- ・介護に携わる方向けのレセプト入力支援アプリの開発など、高齢者に直接触れる部分ではないが、その周辺を支援するシステムの開発を行っており、今後も続けたい。
- ・値札の値段を大きくしてみやすくしている。
- ・中高年向けのフリーペーパーを発行している。
- ・地域の足として、特に高齢者の通院時の介助やスーパーでの買い物等で荷物を持っていたら積極的に手伝いをする事を行っている。今後も継続して行う。
- ・福祉住環境コーディネイターの資格を取得し、お客様の様子をうかがい、ニーズに適切に対応できるようにしています。
- ・低床への切替。
- ・NPO 法人と協力してイベントへの招待、デイサービスの車の駐車場提供、近隣アパートの段差部分に手摺り取付
- ・業務時間短縮等の、体力に合わせた雇用
- ・高齢者の雇用、社会保険の充実、より機械化。残業を0とする。
- ・障がい者（車イス）の方が利用し易いトイレの増設を検討中。
- ・降雪期における融雪製品を提供し、労力への軽減を図っています。
- ・認知症カフェ、認知症サポーター養成講座、地域の神社の初詣への甘酒のふるまい。
- ・高齢者の雇用の安定性。（高齢者の2種免許取得）雇用時に2種免許がない者の自動車学校への教育取得。
- ・シルバー人材センターの活用。
- ・トイレそのものに手すりがついているものに変えた。補聴器を取り扱うことにした。
- ・事務所玄関に休憩用イスの設置
- ・住民への工事お知らせ等の文書に大きな文字や絵を利用してわかりやすくしている。
- ・学び直し講座、コーポラティブ方式による住環境づくり
- ・店舗内にいすを置き、お茶を飲んで休んだり、バス待ちをしてもらっている。
- ・定年後も再雇用しています。
- ・長年経験のある人を雇用している。
- ・シニア生活支援サービス（介護保険適用外で、高齢者の家事や生活を支援する）
空家・不在宅の管理。家屋内の片づけ整理（生前整理・遺品整理）、他に雑貨屋リサイクルショップ（事務所隣接の店舗、高齢者が気軽に立ち寄れる場所提供）

問12 活用する（活用したい）高齢者の能力

- ・（1）業務上資格を保有している事。（2）幅広い人脈と長年の仕事の実績。
- ・仮に高齢者向けの商品開発を行った際の、ユーザーとしての意見・評価をおうかがいしたい。（使い勝手や、いくらぐらいの価格なら購入したいか等）
- ・看護師等の有資格者の労働力
- ・長年培ったノウハウ
- ・地域の冠婚葬祭における知識
- ・過去の記憶
- ・長年培った技術は働くことが可能であれば是非手伝ってほしい。時間を短縮することなどで対応しています。
- ・長年の経験に基づいた豊富な技術力。
- ・幅広い人脈と、長年培ったノウハウが必要です。
- ・古から伝わるお祭りや言い伝え等、歴史や文化を伝承されている方々から貴重なお話や意見を参考に、イベント等の企画・運営に活かしていきたい
- ・長年培った技術と経験
- ・例に同感です。（例：長年培ったノウハウ、幅広い人脈、商品やサービス内容に対する意見・評価）
- ・ベテラン技術者の知恵やノウハウ。
- ・企業としてはない。個人としてはシルバー人材センター等を利用し、経験値を高く評価。
- ・身につけたスキル等
- ・ベテランでなければできないこともある。
- ・長年培った技術。商品などへの意見
- ・機械加工の技術と知識。工場管理。
- ・長年培った経験と技術
- ・幅広い人脈。
- ・幅広い人脈、弊社にて提供しているサービス（宿泊やデイサービスなど）の利用者側から見た気付き。
- ・物づくりに長年培った能力（ノウハウ）
- ・過去の経験、人脈、蓄積された知識
- ・説明能力や対話能力、測量機器の繊細な操作能力など取得に時間のかかる技術。
- ・アイデア力、管理能力、営業力と人脈。
- ・調理をはじめとして（育児・介護・洗たく・清掃）家事全般に関する能力。
- ・医薬品業界経験者
- ・業界に精通したノウハウ、経験、課題解決の手順・手段
- ・ノウハウや人脈。
- ・幅広い人脈。豊富な知識。長年培ったノウハウ。
- ・OA機器（特に古いアナログ的なもの）に対する知識。

- ・清掃は特に豊かな知識等も必要ないですし、経験を重ねていけば効率よく作業ができるという点くらいです。
- ・現場で培った経験と技術
- ・子育て世代に対する支援・関わりが大切だと考えます。
- ・幅広い人脈による営業力があれば弊社にとっては魅力的です。
- ・製造に対する知識、現場管理能力、業界での人脈、資格
- ・長年培ったノウハウ。
- ・当社の仕事内容は専門的な作業が必要なので長年にわたり同じ人を雇用する事で理解し、把握してもらってます。
- ・技術力向上への助言等
- ・長年培った経験と知識（技術）、マナーや他の人と接する際の良い特質。
- ・経験・ノウハウ。
- ・職人の技術・技量・ノウハウ
- ・長年の知識や技術の継承

【超高齢社会において行政に望む施策、民間事業者が取り組むべきことなど】

- ・ 高齢者が元気で仕事の出来る社会を望む。
- ・ 現在の仕事とは全く関係ないのですが、近親者が居ない場合の成人後見人の制度や、最終的に自分を看取る人が居ない場合どうしたらよいのか等の相談窓口があると（すでにあるのかもしれませんが、わかりやすくなっていると）ありがたいと思います。
- ・ 路線バス以外のフレキシブルな公共交通機関（乗り合いバス等）を充実させて、高齢者がもっと経済活動を行いやすくしてほしい
- ・ 買い物の支援。老老介護の実態を正しく把握し、きめ細かい支援・サービスの提供。通院用の乗合タクシー導入。方言を音声で保存。特技や技術の活用推進。特技・技術の活用推進。
- ・ 高齢社会への備えも必要ですが、何よりも少子化対策の方が優先させるべきことではないかと思えます。極端に言うと、年寄りが住みやすい町より若者が定住する町であるべきかと。
- ・ 高齢化に負けないだけ人口増につながる施策を望む。市長は箱物が好きなようですが、新しく造るものの費用枠を、生まれてくる子供に回すことを考えたかどうか
- ・ 行政の壁が厚く、民間がいかに努力しても理解してくれない。特に労働基準監督署。
- ・ 単に箱ものを作るのではなく、1. 町内会活動の活性化（絆）2. 高齢者のニーズの把握、対策の推進。（予算の現実化）さすが秋田と言われる行政を実施されたし。
- ・ 若年層を支えることが結果として高齢者にやさしい都市になると考えるため、そちらを最優先としております。官民共に出来ることは限られていると思えますので、あれもこれもは出来ません。又、行政と私たち民間事業者では発想の原点がちがっていて、単年度実績重視の行政と長期的安定と発展を優先する、利益が無ければ無償ボランティア出来ない民間では相容れないものがあります。さらに「さまざまな施策」についても、アンケートの項目にしなければ、何が出来るのか、取り込んでいるのか認知することが出来ません。
- ・ ●行政に望むこと
 1. 冬期間の除雪の徹底。観光都市ではない。
 2. 市役所職員の対応が不親切である。
 3. 市役所の駐車場の整備を早めてほしい。
 4. 住宅街における駐車違反が多い！
- ・ ●民間事業者が取り組む・・・

高齢者とのコミュニケーションをもっとふやす。
竿燈前の清掃には毎年参加しています。
「なかいち」駐車場少なくて行けない（年寄りの話）
- ・ 外食の際に少しだけ種類が多く食べられるシルバーサイズメニュー、バイキング、食べ放題におけるシルバー料金を設定してほしい。100円バスをさらに周知して

ほしい。公共施設には市役所のように給茶（水）機を整備してほしい。花火大会や竿燈まつりなどで安全に見られるスペース・システムがほしい。（及び駐車スペース）

- ・高齢者に対する対策は良く見聞きし高齢化対策としての優しい街づくりは行政としてこれからも推しすすめて欲しいと思います。また、それと同時に若い世代の人達が魅力的だと思う街づくりへの取組もとても大事だと思います。若者の働く場所や収入の安定が無くて、結婚や子育てをしたくても出来ないような現状ではないでしょうか。秋田の未来に非常に危機感を抱いています。
- ・当社では半分くらい以上の方が60歳以上ですし、最高齢は今年74歳になられる方です。年齢に関係なく元気であれば働ける状況になっています。
- ・バスを乗り降りする段差のない物にしてほしい。ヨーロッパのパリや、富山県などですでに走っているが人口減少の進行が予測されるのであれば早期に若者が集まる活気ある秋田に行ってほしい！若者だって秋田がださくなければ残ってくれるし、もどっても来てくれるはず。高齢者だって若者がいてくれないと大変な事になるのでは？
- ・最近高齢者による車の危ない運転（例・ノロノロ、判断が遅い、ライト点灯忘れ、ウインカーの出し忘れ、等）が多く目につきます。以前知り合いのお客様があまりに下手な運転をしていたので、免許を返納させたら10日後に病死してしまいました。スーパーの近くではこのような車を多く目にしますが、本人達は自覚してないようです。むしろ相手が下手だと思っているようです。私の自転車にスローでノーブレーキで突っ込んで来た車があって怖い思いをした事もあります。ですので、高齢者が買い物に車を利用しなくてもいい方法を皆で考えたいと思います。（例・宅配システムとか買い物専用タクシー券とかタクシーの初乗り距離を短くするとか、電動不転倒買い物自転車の開発とか・・・）
- ・高齢化に伴う認知症専門医が大変少ないというのは深刻です。
- ・高齢化を止める事は難しいと思いますが人口減少を止めるのが最優先では？若者が秋田に残り就職し、結婚し、子供をたくさんつくる！この事だけに全力で取り組んでもらいたい！！これが実現できれば何もしなくても高齢者にやさしいまちになるはずです。
- ・高齢者にやさしい取組なのに、カタカナで意味が分かりづらい。なぜわかりやすい日本語にしないのか、そこからギモンです。
- ・17年前から14年前仕事でノルウェーのオスロ、トロンドハイム、ストックホルム、ヴェットラントへ何度か行った。老人ホームは町の中心地にあり、老人ホームに入居したくない人々に対しては、自宅（町の中の場合は集合住宅）療養が可能であるとの事であった。≫個人宅は見えていないが、若い子たちが当たっているとの事であった。十数年たっているので、現在どうだかわからないが、秋田でも、秋田以外の地域でも、今だ聞かない。居宅の差もあるが、老人介護の方針市政が日本とは異なっていた。システムがよく考えられていた。スキャンジナビアは国家社会主義

と言われているが、老人問題には、日本より先進国であったような気がする。もうあれから十数年経つがまだあの段階まで秋田は行っていない。十数年間で、どのように、社会は変化しているのか？今日このごろ興味が湧く。

- ・超高齢社会とは何ですか？
 - ・高齢者を優しくいたわる社会ですか
 - ・高齢者は邪魔にする社会ですか
(死ぬまで働け、年金は年齢・金額を減らすとか)
財政、行政経費の大幅な削減
 - ・民の高齢者を支えて削減計画を作ってはどうか
 - ・幼児、児童の情操教育に高齢者を大いに活用するべし
- ・職種によって違いがありますが、一般的に定年（55才～60才）の制度そのものの見直しが必要かと思えます。さらに連動して年金受給開始時期（満額）等の国の基準や地方都市における高齢者の職場環境が整っていない状況では、老後の生活不安、健康等第2の人生スタートが円滑に成り立たない様に思います。
行政としてやるべき問題にも限界がありますが、今までの発想を変え、多方面の意見を聞き、官民の格差をなくし、本気に取り組む事が肝要なのではないでしょうか。
- ・すべての世代にやさしいベーシックインカム導入を希望します。
- ・民間を頼らない行政の姿勢
- ・弊社では便利屋サービスを行う中で、高齢者からの様々な依頼に基づくサービスを提供して来ました。これからは高齢者人口の増加に伴い高齢者一人一人の目線でニーズに合ったサービスが求められています。（固定化された一率のサービスでは不十分）（経済的環境から生じる格差を低減する）例えば弊社のメニューの一つである「シニア生活支援サービス」は高齢者が安心して低料金で生活全般の困り事を依頼できる内容となっています。元気な高齢のスタッフが助けが必要な高齢者を支援する仕組みです。（お客様には喜ばれますが、収益は少ないため、大きな会社では難しいと思えます）※賛同者、応援者を募集しています。個人的な考えですが、他にも高齢者の方たちが、気軽に集い合う場所が多く出来れば良いのではと考えています。お茶や食事を楽しみながら会話を楽しむなら孤独の解消や生活上の喜びを少しでも味わうこととなります。
- ・現在卸売りが主で一般客との接点が少ないが、今後小売りへも拡大していく予定なので、高齢者に配慮した形の施設、表示等を検討したい。高齢者の雇用についてはどのようにしていけばいいのか当社での採用したとして、仕事をしてもらえるのか分からない。
- ・子供たちが放課後、児童室だけではなく気軽に行ける場所。児童室の先生たちは障がいのある子供に対しての関わり方をある程度知識を持ってほしい（自分でも調べることが必要）。いろいろな対応の仕方や関わり方の講習を受けて（言葉、話し方など）、子供たちも楽しくいけるような心配りがほしい
- ・当社は障がい者を雇用するために設立された会社です。障害者優先調達推進法が平

成25年4月1日より施行されました。秋田市に印刷の営業に行ったところ「上記法は努力目標です」という回答でした。高齢者だけでなく、障がい者にもやさしくあってもいいものです。

- ・秋田の場合、外出は車を利用することが多く、高齢者ゆえの事故が発生している。高齢者が安心して外出できるよう、公共交通機関が整備されれば良いと思う。現在のバス路線は秋田駅を中心としているため、市の南北、東西を結ぶまたは環状の路線の整備はどうか。
- ・後継者の育成。会社を受け継いでくれる若い人をさがしたいが情報がなくこのまま会社を閉じたらいいのか否か迷っている。